

○活動のために準備した道具、環境設定

マス目ボード(8×8)、磁石付カード(矢印、青●、緑▲、赤■、女の子、男の子、公園)、記録用紙

○活動の様子

講師	教師及び子どもの姿
用具を配る(マス目ボード、磁石付カード)	幼児は前回までの経験から、配られた用具を机に出して主体的に準備を始める。 教師は机上が整うように、乱雑な場合は置き方のアドバイスなど援助を行う。
黒板に磁石を付ける位置を表示し、同じようにマス目ボードに磁石を設置するように指示する。 「上から5個目、左から3個目に置くよ」 「こんな感じで探してみよう」「何個目か数えられた？」と指示をしながら説明を補足していく。	目的の磁石が探せず、「どこだどこだ？」と困っている幼児や貼る場所が分からず困っている幼児へ、「黒板見てごらん、●は上から何個目かな？」などの声掛けを行い、一緒にマス目ボードのマス目を数え置く場所を確認していく。
記録用紙に出来上がった道筋を書き入れることを話す。 「お話するね」と幼児たちの反応に応じて更に説明を加え、幼児たちに「分かったかな？」と確認をしながら進める。	説明を聞き、書き方が分からなかった幼児から「よく分かんない」との声が上がる。教師は、講師の再説明を聞くように促すと同時に、矢印の置き方、進め方として、2人組で協力するように「順番においてごらん」などの援助を行う 「▲が書けない」と話す幼児もあり、教師が「三角が難しい人は、赤であれば●で大丈夫だよ」と代案を示すと、手が止まっている幼児も活動が進み始めた。
1つの道筋の完成を見て、2つ目、3つ目の道筋を考え、更に記録用紙に書くことを話す。 幼児から出たアイディアは「こう思ったの？すごだね」「こっちに行ってみる？」など声に出して認める。また、間違いに気が付いた幼児には「よく気付いたね」と、気が付いたことを褒めるなど、幼児のやる気に繋がるような声掛けを行う。	1つ目のルートを考えて後に、2つ目を考える意味が分からない幼児は黙って周りが終わるのを待っている様子がある。また、考えたルートによっては矢印磁石が足りなくなるグループもある。 教師は、進捗状況に応じて困っているグループへの援助を行うが、困っている内容が言葉で表せるように聞いている。幼児も繰り返していくうちに分かってくるようになると、進みも早くなり「3つめできた」「5個目だよ」などの声上がるようになった。また、矢印が足りなくて困った、書く時の色を間違えたなどの時には、具体的に「こうしてみよう」というアドバイスも行った。

○振り返り

- ・教師は講師の意図をくみ取り、幼児に伝わるように、しっかり声を出して補足をしたり、一緒に盛り上げたりしていると幼児の意欲に繋がり、理解が高まることが分かる。
- ・繰り返しの中で幼児の理解も進むが、▲を書くなどの技術的な問題については、すべてを●で表現するなどの代案を幼児に提示し、幼児がその場で意欲的に取り組めるように援助するとともに、担当講師とも連携をとり、幼児の実態を伝えていく。
- ・矢印で色々なルートを作る経験が、年長時にトイオを使って活動する時にルートの見通しをもってトイオカードを設置する活動に繋がることが分かる。また、トイオが指示に従って動く楽しさにも繋がっていくと考える。

